



送迎の実態を把握するための調査

福祉有償運送の実態に係る実地調査が行われた

十一月十三日(火)午前九時三十分から「福祉有償運送の実態に係る実地調査」が小倉事業所で行われました。北九州市の福祉有償運送の担当する課で保健福祉局地域支援部地域福祉推進課より齋藤渉係長と草垣美紀主任が来所されました。

送迎時の事故や苦情などの

対応の確認を

この福祉有償運送の実態に係る実地調査は、毎年この時期に行われており、送迎実態を把握するための調査です。

昨年は八幡事業所で行われましたので、今年も小倉事業所で行われました。

初めに、齋藤係長と草垣主任は「活動報告書および車両点検表」の確認や運転ボランティアさんに対する点呼の方法、車両の運転前の点検方法などを確認され



保健福祉局地域支援部地域福祉推進課
 草垣美紀主任

地域福祉担当
 齋藤 渉係長

ていました。

続いて、最新の運転者名簿や自動車登録簿、利用者名簿の確認、利用者の登録申請書、送迎料確認証などの必要な書類がきちんと揃っているのかを確認されていました。

次に、送迎時の事故や苦情などの対応の確認、送迎時に必要な福祉有償運送運転者証や家用旅客運送者登録証、運転協力者研修の修了証の確認と送迎時の車にステッカーが貼っているのかなどを確認されていました。

その他に、ボランティアさんの年齢やそれに伴う健康管理、また飲酒運転防止の取り組みなど「さわやか」

で行っている対策を説明させていただきます。

同日開催

平成三十年度北九州市社会福祉大会 市民ふれあいフェスティバル

「あなたとわたしのやさしい絆 みんな待っているよ」

十月二十八日(日)午前十時からウエルとばた三階の大ホールで(社福)北九州市社会福祉協議会主催の平成三十年度北九州市社会福祉大会「地域共生社会の実現に向けた新しいステージへ」今こそ地域のチカラをひとつに」というテーマで行われました。

この大会は、誰もが安心して暮らせる支え合いのまちづくりを推進していくために、地域の皆さんや福祉団体等がより一層連携した取り組みを行うための地域福祉活動の基盤づくりを目的としています。

初めに、NHK解説委員の飯野奈津子氏による「高

実地調査は、午前十時二十分に終了しました。

年齢も障害者も子どもも自分らしく輝けるまちづくりを目指して」と題して記念講演がありました。

飯野氏は、一九八三年に初めて女性記者としてNHK(初任地は福岡)に入局し、その後、東京報道局などで家族や少子高齢化問題などを取材されました。

途中、報道局に新設された生活情報部長や解説副委員長、甲府放送局局長などを得て、現在は解説委員として活躍されています。

続いて、認知症支援介護予防センターの坂田晴矢健康運動指導士による「健康寿命を伸ばしたい!座ったままで介護予防」と題して、健康セミナーがありました。

坂田健康運動指導士は、何歳になっても健康で豊かな生活を送るため、毎日少しずつできる健康体操(座

ったままできるトレーニング(四種類)を紹介しました。最後に、記念式典があり、社会福祉大会は閉会しました。また、同時にウエルとばたで市民ふれあいフェスティバル「あなたとわたしのやさしい絆」みんな待っているよ」が開催されました。市民ふれあいフェスティバルとは、ボランティア活動の市民啓発とボランティア相互の交流などを目的とし、これまで関わってきたボランティアグループやNPO団体に加え、企業や学校などにも呼びかけ、各世代のボランティアや市民活動者との交流と理解が深まるような内容に取り組んでいます。



パネル展示コーナーでは、福祉有償運送のブースがあり、福祉有償運送への理解を求め、市内の実施団体のチラシなどが展示してありました。

ウエルとばた二階の交流プラザやイベント広場では、活動紹介や活動支援バザー、ステージイベント、福祉車両の試乗などの催しがありました。

ボランティアさん及び利用者の方には
 個別にお知らせいたします

事務局はお休みします

1月6日(日)まで

事務局より年末年始のお知らせ
 12月29日(土)から

会員団体の取り組みについて

情報共有しよう

第1回北九州市障害福祉団体連絡協議会(障団連)全体会開催
 十一月八日(木)十八時三十分からウエルとばた六階六A・B会議室で北九州市障害福祉団体連絡協議会(障団連)主催の平成30年度第一回全体会が行われました。今回の参加者は十三団体二十四名の参加があり、「さわやか」から山田、梶原、貞谷が参加しました。(紙面上により一部抜粋して紹介します)

今回は、「災害時における各団体の取り組みについて情報交換しよう!そして障団連として求められる取り組みは・・・」と題して、会員団体の皆さんの取り組みについて情報を共有し、その中から学ぶものや協力し合えること、さらに障団連として取り組むべきことなどについて意見交換を行いました。

初めに、障団連の古賀由美子事務局長より挨拶がありました。

災害時の体験談と

今後の取り組みについて

続いて、林芳江会長から「本日は、まだ記憶に新しい災害(七月六日)のこと



平成30年度第1回障団連全体会の様子

を思い出しながら、意見を述べてもらい、その中から障団連の課題について話せばと思っております」と挨拶があり、研修会に入りました。

古賀事務局長は「七月六日の災害時の体験談や今後の取り組みについてお話しただきたいと思います」と話されました。

続いて、「さわやか」の梶原常務理事から「私の自

宅は七月六日の豪雨の時に崖崩れが起こった場所と同じ町内にあります。

その時に近くの市民センターへ家族と車で避難しましたが、市民センターには避難者が多く、他の避難所に移動するように言われましたが、高齢者だけでも良いので、避難させてほしいとお願いをし、その場にいらることができました。

若い方は、他の避難所に移動は可能かもしれませんが、高齢者や障害者は移動が困難なので、行政の方には対応の仕方について考えてほしいと思います」と体験談を話しました。

会の高橋朱美氏は「視覚障害者は、なれない場所への移動や掲示板の情報を得るのが難しく、トイレへの移動が困難などの障害が多いので、自宅待機を考える人が多いです」と話されました。



支援について考える

また、視覚障害者友好協会の高寺和子氏は「視覚障害者は、支援者の理解がないとサポートが来ない」ということなので、防災士(左記参照)が積極的に取り組む

『防災士』について学ぼう!

助けられる人から、助ける人へ



防災士とは、『自助』『共助』『協働』を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識や技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人です。

防災士に期待される

役割とは

① 平常時の活動
 必要に応じて、防災講演

や災害図上訓練、避難所訓練等のリーダー役を果たすと共に、自主防災組織や消防団の活動にも積極的に参加します。

また、視覚障害者友好協会の高寺和子氏は「視覚障害者は、支援者の理解がないとサポートが来ない」ということなので、防災士(左記参照)が積極的に取り組む

② 災害時の活動
 近年の災害では、防災士による被災地支援活動が積極的に行われました。

また、視覚障害者友好協会の高寺和子氏は「視覚障害者は、支援者の理解がないとサポートが来ない」ということなので、防災士(左記参照)が積極的に取り組む

物資の支援やボランティア活動をはじめ被災地支援に当たります。

また、視覚障害者友好協会の高寺和子氏は「視覚障害者は、支援者の理解がないとサポートが来ない」ということなので、防災士(左記参照)が積極的に取り組む

③ 防災士の権利・義務について

また、林会長と伊野和子副会長が、十一月四日(日)に長行小学校(北九州市小倉南区)で行われた河川氾濫したという想定した総合防災訓練に参加され、その時の状況をまじえて、映像を紹介しました。

最後に、古賀事務局長より「色々な課題が見つかったので、一つずつ解決ができればと思っています」と話され、研修会は二十時三十分に終了しました。